

# 聖歌を歌おう会ニュース

37号 2017年7月2日発行

第36回「聖歌を歌おう会」が6月30日(日) 13時から16時頃まで会館で開かれました。

参加者は鈴木伸明司祭ご夫妻、野澤達也(ピアノ伴奏)、荻野菊乃、菊池晶子、(菊池亮くん) 松村恵美子、横田享秀、(敬称略)、野澤みどりの9名でした。

松村恵美子姉のお祈りで始まりました。最初に次主日(聖霊降臨後第四主日)と次々主日の二曲を歌いました。

## 12番 (古今177番)

大空に満つ 神のみ栄え

※古今では一節の歌詞だけ異なっています。

## 546番

「十字架を背負え」と 主イエスは

## 言われた

## 383番

来ませ 聖霊 あまつ光を 上より賜え

## 255番

心をこめて あがめます そのみ

姿は 見えなくも

※トマス・アキナス作詞。(大神学者)この聖歌はストレートな内容の

歌詞がいいとのこと。宗教改革以前はラテン語から英語に訳して歌うことはできませんでした。今から三十年程前でさえ降臨節の礼拝

などカトリックではラテン語で行われていたそうです。しかし今やカトリックは大変化を遂げて、「ある教会では退堂聖歌にポピュラーの『ビリーブ』が歌われたのでびっくりでした」と鈴木司祭様談。

428番

光にあふれる 永遠の住まいを

次々主日の聖歌から

44番

聖なる主のうるわしさと み栄えを 世に宣べよ

512番 (古今444番)

み使いの たたえ歌は 海 山に満ちあふれ

※古今とほとんど歌詞が変わっていません。

特別に海の日の聖歌を歌いました。

342番

とこしえの父は 荒波を治め 大海の境 深みに定める

リクエスコトコナー

鈴木司祭様に、普段はあまり歌う機会がないような聖歌を紹介していただきました。

## 573番

平和は 背中も 足もとも わたしのすべてを 照らす命 いつまでも 照らす命

574番

ドナ ノービス パーチェム インドナ ノービス パーチェム、ドミネ(※キャンピング)

572番

闇夜に 火を灯し 恐れぬぐう

40番

この日も終わりぬ 世の造り主よ

200番

聖なる 聖なる 聖なるかな みにいまして ひとつなる

435番

主の 言葉 聞けよ 主の民の 耳よ

483番

神の国と神の義を まず求めよう

※ハレルヤの部分でハレルヤと歌うチームと神の国と歌うチームに分かれて歌うのも楽しい

308番

賛美する喜びと 心からの祈り

※手振りを入れて歌うのも楽しい

367番

イエスキミは いとうるわし 天地の主なる

※横田兄談「若い頃に吉崎秀一兄を中心に初めてクワイヤーで歌った聖歌です」(吉崎秀一兄葬送式でも歌われました)

歌の後は約一時間は飲み物をいただくながら、おしゃべりに花が咲きました。

鈴木司祭様から紹介して頂いた聖歌はそれぞれにあるインパクトを持っていきます。聖歌集の編集では細心の注意を払っていても、ミスがあるもの。「へえーっ。そうなの？」と得をしたような気分でした。

初雁幼稚園が多数の園児を抱え、分園まであった頃の様子も語られました。荻野さんのお子さんはバスで初雁幼稚園に通っておられ、当時吉崎秀一兄が園でサンタクロースに扮した遠い日のことをお聞きすることができました。

◆  
晶子さんの第二子亮くんはママに抱かれてすやすや。重みでいつもの美声が少し制約されたようです。

●  
若い頃は大きな声で歌えても年を取ると声も出にくくなります。小さな声にも耳を傾ける優しさが教会には必要ですね。

●  
帰りに松本操さんのお宅でお元氣そうなお様子にホッとしました。次回は7月30日(日)午後1時から、礼拝堂にて開く予定です。鈴木司祭様も参加くださる予定です。お楽しみに！

(文責 野澤みどり)